

インドの石炭火力発電事情と計画

インド政府、国際機関によると、インドにおける石炭火力発電の計画と一般炭の生産・流通に関して、次のように報じられている。

インドにおいて石炭は一次エネルギー消費の 57%、発電電力の 76%を占めている。2040 年に向け、一次エネルギー消費は年率 3.3~4.5%で増加、発電電力は年率 4.7~5.5%で増加するとされている。

そのうち、石炭の消費は年率 3.3~4.5%で増加し、石炭火力からの発電量は年率 2.7~4.8%で増加するとみられ、石炭の一次エネルギーと発電電力に占めるシェアは低下する。

2017 年において、発電設備は 326.8GW、うち石炭火力は 192.2GW である。

第 12 次 5 カ年計画中、石炭火力は 80.1GW 増え、現在 50GW が建設中であるが、政府は 2021-22 年度までの再生可能エネルギー設備の導入計画を 175GW としており、これが実現すると、2026-27 年度までの石炭火力新設は不要。

石炭生産を高め、電力向け一般炭の輸入量を「ゼロ」と目標を掲げているが、生産可能量、発電所への流通コスト、灰分等品質面から輸入は今後とも減らないであろう。

一般炭の輸入は、これまでインドネシアと南アフリカが中心であったが、両国とも国内需要が増大しており、今後、豪州、モザンビーク、ロシア、コロンビアなどからが増加し、貿易フローが変化するとみられる。

(JOGMEC レポートから引用)